

目 次

まえがき	平井 保	
本研究の計画と経過		1
— 総 論 —		
1. 身体・身体運動への教育的関わりについて		
—指導者の立場から—	笹本 健	5
2. 身体にとって表現とは何か		
—動作の対象化と再構成の機構— (再録)	滝坂 信一	11
3. 身体接触の意義について		
—理論と実践の橋わたしを試みて—	落合 俊郎	26
4. 身体運動・対象化・他者	河野 哲也	32
— 各 論 —		
1. 重度・重複障害児との身体接触を伴った関わり		
—現象学的考察をもとに—	笹本 健	45
2. 主体としての子ども、関わり手としての私	徳永 豊	51
3. 動作法におけるコミュニケーションの成立をめぐる		
—「とけあう体験」と「なぞり」を中心に—	今野 義孝	57
4. 動作援助過程における体験内容の記述の試み		
—自己・他者・関係への志向と体験内容を中心に—	緒方登士雄	65
5. 自己対象化作用の発達の検討	滝坂 信一	72
6. Facilitation による書字、描画の諸方法	落合 俊郎	80
7. 運動の制御		
—エコロジカル・アプローチの視点—	佐々木正人	88
— 事 例 —		
1. 子どもが人との関係で学ぶこと		
—「バイバイ」の成立過程を通して—	岩田 克彦	97
2. 排尿行動の変遷について		
—自己対象化の視点からみた指導事例—	小林 倫代	103
3. 肢体不自由養護学校の事例研究にみられる運動・動作	久田 信行	109
4. 障害児の手の動きに関する表出援助法の効果について		
—独自で書字、描画が可能となった事例を通して—	落合 俊郎	113
5. 視覚障害に起因する行動の制限とその対応について		
—重度弱視児の視覚—運動機能からみた視知覚と行動の関連性—	千田 耕基	118
6. 盲児における形の理解と運動障害		
—ハプティック知覚における方向情報の意識化とその促進—	志村 洋	126
7. 軽度精神遅滞児の運動を巡る問題とその改善のための指導		
—「跳び箱」を跳ぶことの指導を通じて—	篠原 吉徳	139
8. 起き上がった姿勢での活動に拡がりの見られた事例	渡邊 章	145
— ま と め —		153
— 今後の課題・展望 —		155